彙　報

第二回総会および研究集会

木簡学会の第二回総会および研究集会は、一九八〇年十二月六日、七日の両日、奈良国立文化財研究所平城宮跡資料館において行なわれた。研究集会では藤原宮跡や長岡京跡など新出土の木簡を目の当りにしながら、九名の研究報告をめぐって活発な討論が行なわれた。総会および研究集会の概要は左記の如くである。

◇十二月六日（土）午後一時十五分から

第二回総会（議長　山田英雄氏）

岸俊男会長の挨拶のあと、平野邦雄氏の推薦により山田英雄氏を議長に選出して、議事に入った。

会務報告（田中委員）

本学会の一年間の活動と現状とについて、つぎのような報告があり、異議なく了承された。会員数は昨年同時期に比べて一六名増の一四〇名であり、会員名簿を発行したこと。会誌二号は七〇〇部印刷し、頒価は三五〇〇円・送料四〇〇円とすること。会誌創刊号は五〇〇部増刷し、初版とあわせて一〇〇〇部印刷したこと。情報収集活動の一環として三重県・柚井遺跡について栄原永遠男氏による調査が行なわれ、その成果は会誌二号に収載できたが、下曾我遺跡についても近い将来に調査する予定であること。一九七九年および八〇年の出土木簡については、諸機関の協力によって情報を十分に収集しえたこと、などである。

会計報告（狩野委員）

別紙の一九七九年度（一九七九年四月～八〇年三月）の会計についての内訳の説明があり、また一九八〇年度会計の中間報告（八〇年四月～一〇月末）も行なわれ、七九年度会計報告については帳簿類に誤りのなかった旨の会計監査（関晃氏・土田直鎮氏）報告が行なわれ、異議なく承認された。

役員改選

会則第七条にもとづき、委員（任期、一九八一年四月～八三年三月）の改選が行なわれ、別掲の如く現委員の留任と新たに三名を委員とすることが提案され、承認された。総会ののち二時より研究集会が開かれた。

研究集会（議長　平野邦雄氏）

中国における簡牘研究の位相　池田　温

最近の各地遺跡出土の木簡　佐藤　信

長岡京跡出土の木簡　山中　章・今泉隆雄

いずれも成果は本誌に収載することができた。

◇十二月七日（日）午前九時～午後三時

研究集会（議長　早川庄八氏・直木孝次郎氏）

藤原宮出土の木簡　加藤　優
城山遺跡の調査　向坂鋼二
城山遺跡出土の具注暦木簡について　原秀三郎
草戸千軒町遺跡にみる中世木簡の形態について　志田原　重人
平城宮（京）跡出土の木簡　清田善樹

右の諸報告についても前日同様に活発な質疑が行われ、とくに原報告については暦学の立場から岡田芳郎氏の発言があり、志田原報告にふれては岸俊男氏から本誌の釈文の表現法についての説明と同氏の私案について発言があった。これらの成果はいずれも本誌に収載することができた。

最後に大庭脩氏の挨拶があり午後三時に閉会した。

委員会報告

◇一九八〇年十一月一四日

第二回木簡学会総会・研究集会の日程について討議され、会誌二号の編集情況についての報告が行われ、あわせて七九年度会計についての報告も行われた。新規入会申込者として三名の入会が承認された。

◇一九八〇年十二月六日

総会に先だって行われ、総会報告の原案についての検討が行われた。なお研究集会の終了後の委員会で、次期も引きつづき岸俊男氏を会長、平野邦雄・大庭脩両氏を副会長に互選した。

◇一九八一年六月四日

一九八〇年度会計報告、会誌第三号の編集について討議され、第三回総会・研究集会を十二月五、六日に奈良国立文化財研究所資料館講堂で行なうこととした。新入会員八名が承認された。

◇一九八一年十月二十三日

第三回総会・研究集会の日程、会誌三号の編集、八一年度前年期の会計状況について審議され新入会員一名が承認された。会費滞納者の問題について論議された。また会誌二号を二五〇部増刷することとした。

木簡学会　役員

会長　岸　俊男
副会長　大庭　脩　平野　邦雄
委員　青木　和夫　岩本　次郎　岡崎　敬
門脇　禎二　狩野　久　鬼頭　清明
佐藤　宗諄　田中　琢　田中　稔
坪井　清足　直木孝次郎　早川　庄八
原　秀三郎
監事　関　晃　土田　直鎮